

資料 3

過疎地及び過密地における幼児の実態調査

その1 過疎地(秋田県)における幼児の身体状況

伊藤 玲子*・佐々木芳枝*
 湯沢保健所, 矢島保健所
 鳥海村, 皆瀬村, 東成瀬村

その2 幼児の生活構造に関する比較

平井 信義**・千羽喜代子**・前川 当子**
 森上 史朗**・八倉巻和子**・馬場 吉三**
 関 真知子**

その1

I 目 的

激しい時代の変化に伴う幼児の家庭生活構造の実態を、衣食住、保育、家族関係、経済等の諸条件について総合的に研究し、過密地（東京都8幼稚園、近県1園）と、過疎地（秋田県3農村、鳥海村, 皆瀬村, 東成瀬村）の比較を行ない、それに基づいて、今後の幼児の家庭生活に対する対策を研究することを目的とする。(図1)

図1-1 秋田県調査地区

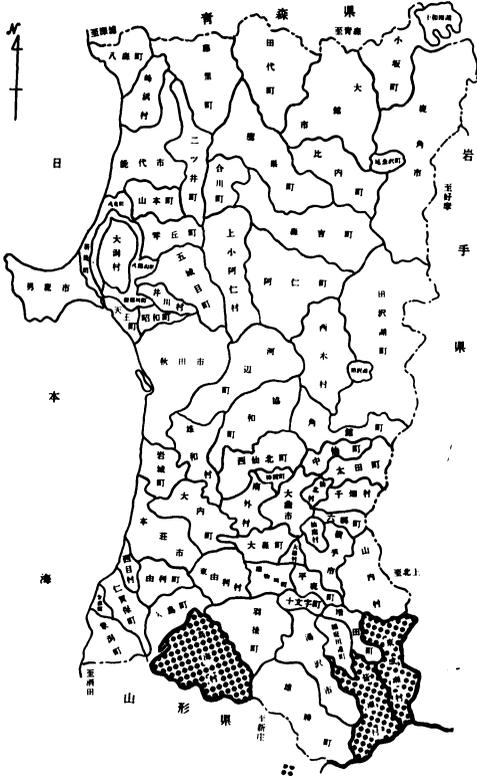
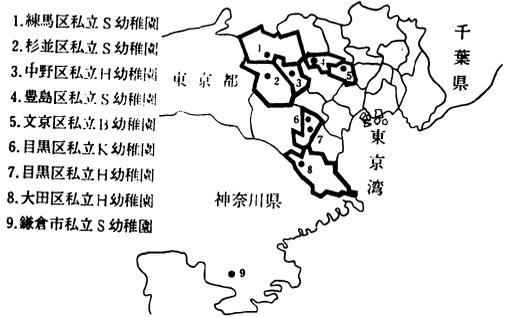


図1-2 東京都調査幼稚園



II 対象, 方法

核家族の5才, 長子とし(秋田は核複不問, 6才未満も入る)母親に質問紙による面接調査を行ない, 秋田においては, 子どもの健康診断を実施した。東京は, 一部身体計測のみ行なった。調査人員は, 東京, 秋田とも, それぞれ97名である。(表1)

表1 調査時期対象

	東 京	秋 田
調査時期	47年2月～3月	47年11月
地 域	都 内 8 園 近 県 1 園	鳥 海 村 東 成 瀬 村 皆 瀬 村
対 象	核 家 族 5 才・長 子	3～4世代家族も 入れてよい 5～6才未満学長 子
調査人員	男児 49名 女児 48名) 97名	男児53名) 97名 女児44名) (核19)

*秋田県衛生科学研究所

**大妻女子大学家政学部児童学科

Ⅲ 成 績

秋田県3村の過疎現象¹⁾としては、出生率が低く、人口減少率も10%を上まわる。面積の80~90%が山林原野

で、稲作が主産業であるが、零細農家が多い。積雪量も多く、出稼も年々増加の状況である。(表2)

表2 調査地区の概況(秋田県) 昭47年

	鳥 海 村	東 成 瀬 村	皆 瀬 村
人 口	9,627人(男49.7%) 2,124世帯	4,363人(男47.7%) 1,001世帯	3,689人(男48.4%) 779世帯
減少率	29.8人/1km ² 11.5% △(12.3%)	21.3人/1km ² 12.1% △(10.9%)	16.9人/1km ² 20.1% △(9.5%)
出生死亡 *乳児死亡	120人 92人 *2人	43人 32人 *0	44人 27人 *0
特徴的な過疎的現象	1 面積 322.5km ² の80%山林 90%以上起伏の多い複雑な地勢 2 基幹産業は稲作 1戸当耕地面積1.1ha 10a当り442kg(県平均510kg) 3 豪雪地帯で積雪量3mにも及ぶ 4 出稼者は年々増加, 20%増(45~44)	1 面積204.9km ² の92%が林野 奥羽山脈の奥深く入りこむ 2 基幹産業は稲作 1戸当耕地面積90aで零細農家が多い 3 積雪量2~4m 4 農家の約90%は毎年出稼ぎ 5 村の中心部を流れる川添に大小20の集落が散在, 奥地は村の中心より8km~21km以上	1 面積218.4km ² の93%が林野 奥羽山脈の山ふとところにあり 2 基幹産業は稲作, 葉タバコ 1戸当耕地面積90aで生産性が低く零細農家が多い 3 積雪量2.5m~3.5m 4 出稼者が年々増加長期化, 離村, 転職者多い 5 村の中心を流れる川添に大小20の集落が散在
教 育	小学校(本校5・分校4) 1,107人 中学校(本校4・分校1) 770人 認可保育所(1) 250人 児童館(1)	小学校(本校4・分校2) 509人 中学校(本校1・分校4) 347人	小学校(本校4) 432人 中学校(本校2) 258人

注 ○昭35~40 △()昭40~45~減少率

健診状況としては、

1) 特別の子どもはみられなかったが、一般農村と同様、感染症、むし歯が多い。血圧は、昭和47年の秋田県学童6才の平均²⁾に比し、やや低い傾向となった。3ヵ月までの栄養は、母乳が68.5%で、昭和47年秋田県農村平均³⁾30.8%に比し多い。(表3)

2) 身体状況と、その2に述べる生活環境との関連をみたが、今回は特別のことはみられなかった。例数を重ねていきたい。

3) 身体計測の上より、秋田の5才児と、東京のそれと比較してみると、平均値で大差はない。ただ、男子5才前半の身長において、秋田がやや高い結果となった。(P<0.05)。発育分布の上よりみると、男子で「やせている」が秋田に多く(P<0.01)、女子では体重の「下」が秋田に多い。(P<0.01)。

また、カウプ指数で「ふとっている」が東京に多い。(P<0.01)(表4, 表5, 図2)

4) 3村の中、子どもの数の一番多い鳥海村の過去10カ年の3才児平均身長、体重の年次推移をみると、体重はコンスタントであるが、身長は明らかに上昇の傾向である。(図3)

以上のことより、秋田の農山村においても、幼児の体型が、身長伸びによる細型の子どもの増加していること、いわゆる発育促進現象の傾向が想定される。

表3 健 診 概 況 (秋 田)

	男53名(6才15名)	女44名(6才15名)	備 考
出生時身長	49.97±1.78	50.21~1.81	* 50.2, 49.7
体 重	3.07±0.43	3.04±0.14	3.2, 3.1
低 体 重	5名	4名	
主なる既往歴	感 染 症 22(41.5%) 事 故 5 へ ル ニ ア 4(3)手術 消 化 不 良 4 夜 尿 3 斜 頸 1 て ん か ん 1 く る 病 1 栄 養 不 良 1 ぜ ん そ く 1	感 染 症 24(54.5%) 交 通 事 故 1 打 撲 ・ 脱 臼 3 へ ル ニ ア 2(1)手術 腸 閉 塞 1 手術 紫 斑 病 1	
主なる現症	扁 桃 肥 大 25(47.2%) ハ リ ソ ン 氏 溝 11 胸 廓 変 型 5 へ ル ニ ア 2 口 角 炎 2 下 肢 内 ほ ん 1	扁 桃 肥 大 21(47.7%) ハ リ ソ ン 氏 溝 7 胸 廓 変 型 2 皮 膚 疾 患 3 口 内 炎 1	
う 歯	9.3本(0 1名)	10.2本	** 5.6~7.5
血 圧	6才 91.1±12.1~46.6±8.9 5才 88.3±9.8~45.1~11.7	89.6±10.0~44.0±10.4 86.1±9.4~43.3±13.5	***秋田6才 男101.3~58.2 女100.3~57.5
蛋 白 尿	陽 性 な し	陽 性 な し	
栄 養 法	母73.5% 人6.1 混8.2	母62.5% 人5.0 混10	**** 母30.8 人41.3 混25.0
乳 健 回 数	5.3回(9回~2回)	4.3回(8回~1回)	

* 昭45全国 **昭36全国一人平均5才以上 ***昭44.45秋田県調査6才
****昭47秋田県乳児健診農山村平均

表4 5才児 地区別 身長・体重・カウプ指数平均値

事 項	地 区	前 半						後 半					
		男			女			男			女		
		N	M	α	N	M	α	N	M	α	N	M	α
身 長	東 京	13	103.15	6.69	15	107.77	3.84	14	110.79	3.28	10	111.05	4.70
	秋 田	17	108.24	4.83	15	107.45	4.21	20	108.25	5.03	14	107.34	5.06
体 重	東 京	13	17.14	2.05	15	17.37	1.94	14	18.66	2.25	10	18.65	15.8
	秋 田	17	17.29	1.90	15	17.28	2.44	20	17.18	1.88	14	16.69	1.96
W/L'×10	東 京	13	16.14	1.71	15	14.94	1.31	14	15.20	1.65	10	15.15	1.31
	秋 田	17	14.74	1.00	15	15.03	1.41	20	14.67	1.20	14	14.45	0.90

表5 身長・体重・胸囲・カウプ指数分布

%

分布	地区	男 東京27名, 秋田37名				女 東京25名, 秋田29名			
		身長	体重	胸囲	W/L ² ×10	身長	体重	胸囲	W/L ² ×10
M+½α	東京	33.3	25.9	—	33.3	36.0	36.0	—	48.0
	秋田	34.2	23.7	26.3	* 21.1	34.5	24.1	34.5	* 13.8
M±½α	東京	37.0	37.0	—	51.9	48.0	52.0	—	32.0
	秋田	23.7	39.5	50.0	36.8	37.9	34.5	44.8	51.7
M-½α	東京	29.6	37.0	—	14.8	16.0	12.0	—	20.0
	秋田	42.1	36.8	23.7	42.1	27.6	※ 41.4	20.7	34.5

※ p<0.05

図2 身長・体重・胸囲・カウプ指数分布
5才児秋田

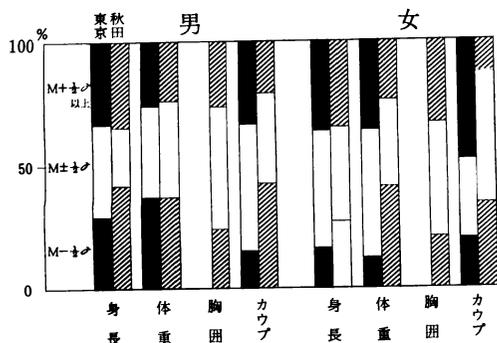
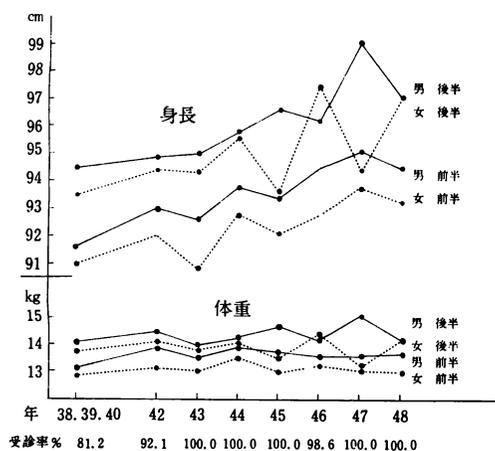


図3 鳥海村3才児平均身長・体重年次推移



その2

I 目的

生活構造の構成要因を、時間、空間、家計、衣食住、家族関係、教育およびしつけの6つの要因とし、これらの要因が相互に関連しあい、構成されて、生活が展開されるという視点のもとに、幼児の生活構造の地域別比較を行なった。

対象および方法は、その1に同じである。

II 結果

- 1) 秋田県3村の核家族の比率は低く(19.6%)、複合家族の家族形態は、家計および教育、しつけの面に影響を及ぼしている。教育的配慮のうすさが推定される。
- 2) 子どもの遊びに及ぼす商業主義の影響は少ない。さらに、遊びの種目には、集団活動の要素を含んだものが多い。
- 3) テレビの普及、交通機関、道路事情の好転は、親の生活意識、および子どもの生活を変えつつある。
- 4) 秋田の核家族の母親は、東京の母親にみられる核家族の養育の型をとっている。なお、核家族の養育の型が、子どもの養育に適したものと考えることが出来るか、今後の検討を残している。

文 献

- 1) 秋田県総務部地方課：秋田県の過疎地域，1970。
- 2) 秋田県医師会：秋田県における児童生徒血圧の疫学的研究，1970。
- 3) 伊藤玲子他：乳児健診におけるアンケート調査のまとめ，秋田県衛生科学研究所報，17輯，91—99，1973。